

映画「プロミスト・ランド～サーファーたちが見たイスラエル」

小冊子「聖書で学ぶ『約束の地』」 トッド・モアヘッド著

はじめに

●映画「プロミスト・ランド～サーファーが見たイスラエル」 70分

美しいイスラエルの海と自然を背景に、米国のクリスチャンサーファーと、イスラエル人サーファーたち、そしてアラブ人サーファーが交流する。

名サーファーとして世界的に知られるトム・カレン氏のイスラエル訪問も紹介される。彼らはテルアビブでサーフィンを楽しんだ後、エルサレムとガリラヤを訪れる。

最後はみんなで「過越の祭り」を祝う。

●小冊子「聖書で学ぶ『約束の地』」は、この映画のスタディガイドとして制作された。

なぜ、イスラエルの地は「約束の地」なのか。

聖書はイスラエルについて何を語っているのか。

なぜ、イスラエルが重要なのか。

このような疑問を、わかりやすく学べるように構成されている。

イスラエル民族は、神がご自身の民として選び、またご自身の「瞳」と呼んで愛しておられる民である。彼らについて、クリスチャンが知っておくべきことが、この小冊子には簡潔にまとめられている。

●これまで多くのキリスト教会で誤って教えられてきたことは、次のことです。

教会は「霊的なイスラエル」である。

イスラエル民族は、神の選びの民としての使命に失敗した。

その地位は、教会が引き継いだ。

よって、旧約聖書に約束された祝福は、現代ではイスラエル民族ではなく、教会のもの。

みやま集会では、教会がこのような誤った教えにそれていったのは、どういう経緯だったのか、という質問が出ました。

そこで、この映画と小冊子を通して、この疑問について学ぶことにします。

学びは3回シリーズで、第1回の本日は映画を視聴し、第2回と第3回は、この小冊子の中から、第2章「神のご計画と現代イスラエル」と第5章「教会はどこで間違ったのか」とを取り上げて、学びたいと思います。

●なお、この小冊子の聖書解説では、フルクテンバウム博士の論文からの引用も多数です。

映画の概要

1. 主な登場人物

- (1) トッド・モアヘッド 米国人のサーファー、プロにはならずにはクリスチャンとして伝道目的でサーフィン指導をしている。
- (2) ハニ ユダヤ人のサーファー、サーフボードの製作販売業。
- (3) トム・カレン 世界的に有名なプロ・サーファー

2. 映画の展開

(1) イントロダクション

- ① ナハリヤ 北の隣国レバノンに近く、ミサイル攻撃を受けることがたびたび。
- ② ヤッフオ（ヨッパ） ハニの工房と製作風景
- イスラエルの歴史
 - 過越の祭りの食事（セデル）とナチス・ドイツによるホロコースト
- ③ アラブ人サーファーにとっては「パレスチナの地」、ユダヤ人のハニにとっては「約束の地」

(2) トッドの紹介 米国カリフォルニア州出身、サーフィンを通しての伝道活動

(3) ハニの紹介 ユダヤ人サーファー、米国に渡りオーストラリア人のマイケルから手ほどきを受けて「シェーパー（サーフボードの製作）」になる。

(4) トッドのイスラエル訪問

- ① 1948年の独立戦争
- ② ユダヤ人のサーファーたち（オラン、マヤ、・・・）
- ③ ハニとトッドがカフェで語り合う：ハニが米国の有名なシェーパー、アル・メリックの工房を訪問、アルの家族（息子は工房を継がずに牧師）と交流

(5) サーフィンを通しての平和活動

- ① イスラエルの海にサーフィンを伝えた先輩たち
- ② ユダヤ人女性サーファーであるマヤの紹介、兵役の話

(6) トム・カレンの来訪

- ① ユダヤ人クリスチャンのバニーも加わり、サーフィンを楽しむ
- ② エルサレム訪問（マヤ、オラン、バニー、3つの立場）
- マヤは、無神論、宗教に否定的
 - オランは、ヘブライ語聖書（旧約聖書）の神を信じる
 - バニーは、イエスをメシアであると信じる
- ③ ガリラヤ訪問
- ナハリヤ：退避シェルター整備のボランティア活動を紹介
 - ガリラヤ湖畔、カペナウム

④ アラブ人の少年にサーフボードをプレゼント

(7) 過越の祭りの食事（セデル） バニーがその意味（イエスとの関係）を語る